1.最悪の出会い

「んぇー、分かる分かる。勉強とかねー、何の為にしてるのって感じ。
どうせ将来なんの役にも立たないでしょー、うんうん」

「あっははは。ほんとそれな。
あたしだってそだよ～。えー？　マジ？　ないない。
……え？　あ、ごめんね、今日はちょっとさ、うん、
図書室寄ってく。……あはは、皆たまには本とか読みなよぉ～。
んー、ばいばーい。また明日～。……、……」

「あ、ヤビツさん。今日も？　読書熱心だね～」

「うん！　ちょっと場所借りるね～」

「どうぞ～。ほんとさ～、全然ひと来なくて退屈だよ。
もぉお、ジャンケンで負けたからって、
本当こんなのやるんじゃなかったなぁ～。
ま、のびのびとスマホゲー出来るからいいけどね♪」

「あはは～。図書委員も大変だねぇ……」

……ッはァアッ。チッ。チッ、チッ。
うるさいうるさいうるさいうるさいうるさい。私に話しかけるな。
この不真面目なクソ図書委員といい、さっきのクソクラスメイトといい、
野猿どもが。何が分かる分かるだよ。お前に何が分かるっての。
ぜんぶ悟ったような口で、あーあーあーあー馬鹿馬鹿しい。
馬鹿どもの相手は本当、馬鹿馬鹿しい。あー気分悪い。吐きそう。
世の中、クソが溢れすぎてる。

……将来、未来、勉強の必要性、よくもまあ呑気に口に出来るもんだ。
勉強の意味を一度でも考えた事があるのか？　考える脳もないくせに。
はあ。もうやめよ考えるのやめよ。本、本……うん、今日は太宰治にしよう。
よし。気持ち切り替えて……私のお気に入りスペース……で、
……、……え？
おい。おいおいおいおいおいおい。誰だ。誰だよ。誰だ。そこに座ってるの。
はァッ。最ッ悪、最低&クソクソクソクソ。
どこぞの馬の骨の野郎が、私のいつもの居場所を奪いやがった。
澄ました顔して本読みやがって。ふざけんな。
あッ。こいつ、よく見たらクラスメイトの地味地味ぼっち野郎だ。
いつも教室でぽつんと本読んでる根暗。なんで今日は図書室にいるんだ。
ぶっ殺すぞ殺すぞ殺すぞ殺すぞぼっち。死ね死ね死ね死ね死ね。
……はあッ。仕方ないな……。

「あのぅ。ふふ。そこ、良い場所だよねぇ。
本棚の陰……好きなんだ？
……ああ、そうなの。あはは。あたしも一緒だよ～。
ん？　あ、そうそう！　あたし、ヤビツ藍だよ。クラスメイトの。
覚えててくれたのっ？　うれしい～♪
うん。私もいつもそこで読んでるんだ。落ち着くよねぇ、うんうん。
え？　ああいや！　ほら、普段誰も使ってないからさ、びっくりしちゃって。
んふ。自由に使っていいんだよ～、ゆったりくつろいでくださいな～」

いいわけないだろ。そこは私の場所だ。私の場所を返せ。
お前誰の許可もらって座ってるんだ。私の……私の場所を穢すな！

「……え？　いやマジ、いいってば。先にとったひとのモノだよ。
あたしは他の場所で読むからさ～。あはは。
え、だからさ、いいって言ってんじゃん。

……、……？　……なぁに？　その目……あっ……、……へ？」
……行った。行きやがった。あいつ今、なんて言った……？
「取り繕うのは、疲れるよね」……だって？
意味深な言葉と、全てを見透かすような眼差し……。
……ざけんな。
ざけんなざけんなざけんなざけんなざけんなざけんなざけんなざけんなざけんなざけんなざけんなざけんなざけんなざけんなざけんなざけんなざけんな。
「あれっ？　や、ヤビツさんどうしたの！？」
……。

「あ、ちょっといいかなぁ！　ごめんね！
あのさ、今のどういう意味かな？
ごめんあたしバカだからさ、分かんなかったや。教えてくれるかな？
……うぇ、や、約束なんて別に……、あとでも、
ほらまだ、話終わってないし、ちょっと待って――」
「へっ、な、なぁに？　この紙。……、……ID？　何の……って、あ！
まッ、あのっ、話はまだ……あッ」
何だ。何だ何だ、何なんだあの男は……。
なぜどうしてなんで私が、こんな気持ちにならなきゃいけないんだ。
私はただ本を読みたかっただけなのに……！
あいつの絡みつくような言動、表情、何もかもが私を苛む。嘲笑う。
「取り繕うのは疲れる」、どう解釈しても最悪の答えしか出てこない。
つまりあいつは、私の、私が誰にもこぼした事のないアレを、
知ってるって事。……ぁあ。あぁあッ。あり得ない。あっちゃいけない。

そんな、そんな事は、絶対に。
でも、もし誰かに……喋られでもしたら……、
いや、あんな根暗男の言う事なんて、誰が聞くか？
私なら絶対聞かない。それなら大丈夫か？
いやダメだ。私の平穏を崩される可能性が少しでもあるなら。
……クソッ。この紙は……あいつにもらったこれは、
きっと、無料通話アプリのID。
確かに通話なら、周りの目を気にしなくて済む。でも、でも……。
ウグ……。こんな事で胃を痛めるなんて、最ッ悪……。
この紙は、まるで呪いだ。
私の口で、あいつを言いくるめるしかない。登録してやる……。
……チッ……。一応、あいつの本名か。
悪戯だったらマジでぶっ殺すところだ。
……よし、通話。……出ろ、出ろ出ろ出ろ出ろ出ろ出ろ出ろ出ろ……、
出ろッ！

2. 最高の吐露

あっ、ヤビツでーす。こんばんは！
ああー、よかったぁ。やっぱり君だったんだ。
もう～、びっくりしたよぅ。いきなりID渡されて。
なになに、もしかして告白でもしちゃうつもり？　あはは。
もうもう、君は草食さんなのかな？
私なんていつでもフリーなんだから、そんな回りくどい事――え？
……、……また言うの？　それ。
……。はァアッ……。
たぶん、分かってると思うからさ、言わせてもらうけど。
お前、どういうつもり？
いきなり現れてさ、失礼な事言いやがってさ。何なの？

お前は私のなに？　私の何を知ってるっての？　おい。
今日ね～、お前のせいで気分超最悪なの。分かる？　分かるよね。
分かってて言ったんでしょ？
私がさ、友達多くて？　成績良くて？　割かし可愛いし？
もしや嫉妬しちゃった？　輪に入れない身分だからかな？　知らねえよ。
イラつくイラつくイラつくイラつく……！　お前みたいなの見てるとさ、
当たり前に出来る事が出来ないような、そんな奴見てるとさぁ……！
ぼっちはぼっちらしく、陽キャの輪を外から眺めてろ、クソ根暗ぁッ！
――はぁ……はぁ……。何か、言えよ。何で黙りこくってんだよ。
……あ？　え、なに？　……お前、マジのアホ？
私の声と話聞いて、どこが楽しそうに思えたの？　あべこべすぎない？
おい。いいか。お前がどういう経緯で私の……これを知ったか知らないけど、
まあ、陰キャのお前が考える事は大体分かるよ。ちゃちな脅しか、それとも、
この事実を自分だけが知ってるって優越感？　どっちにしろ馬ッ鹿みたい。
……違うのか。じゃあ何だよ。……、……は？
何だよ、それ。え、なに、お前、本当に私の事……好きなの？
へ、へえ。ふーん。ああそう。いや別に私はお前の事なんかさ、全然さ、
好きじゃないけどさ。むしろ……嫌いの部類。大嫌いさ。
ていうか全員嫌いだ。どいつもこいつも馬鹿ばっかりだからね。
のほほんと生きて、間抜けヅラして生きて、恥知らずの馬鹿ども。
そんな能無しど――……あッ……。
あ、ぁ、そうか、お前は……。
くッ……。うぐ……、ウグググ……。
ああ、分かったよ。それだけは認めてやる。
親も教師も同級生も見抜けなかった私の本心を……暴いたのだけは、
うん、まあ、正直焦った。
こんな風に、一切を取り繕わず喋るのも……初めてで。
それに共感するっていうならお前は……、
私と同類なのかもしれないな。まあ、限りなく程遠いけどね。

だって、私ぼっちじゃないし。友達たくさんいるし。お前は真逆じゃん。
で、そういう何やかんやをひっくるめても、ただそれだけだよ。
冷静になりゃ、ふーん、それで？　って感じ。
お前が脅迫だとか邪（よこしま）な気持ちがないなら、もうこの話は終わりね。
別に私は好きじゃないし、お前の下らない告白に応えるつもりもない。
……ああ？　いや、その。……イエスかノーかだけじゃないだろ。
……告白……されるのは、初めてじゃないけど。そりゃ私、可愛いからな。
でも、今までしてきた野郎は、脳ミソ空っぽの木偶（でく）人形みたいな、
アホ丸出しの勘違い男ばっかりでさ。ほんとキモくて、
キモいんだよ死ねって言ってやりたくて、でもそれを飲み込んで、
って感じで……。
だから、ええと……、……今回は、単に拒否するだけじゃ、つまらないだろ。
い、いや、つまるつまらないっていうか！
私、お前の事……あんまり知らんし。
だから、……ああもうッ、返事は待ってろって話だよ、クソが！
なに笑ってんだよ、ニヤついてんだろお前ッ。死ねッ！
死ね死ね死ねッ！　このッ……童貞野郎ッ。
……はあッ？　私は――……、……うるさい、うるさいうるさい！
もうお前黙れッ。ずっと黙って、私の話を聴いてろッ。
はッ――ち、違ッ……、ぁああッ……。
くぅううッ……！　もう切るからな！　ほんっとお前ウザい！
クソクソクソクソ&クソ！　じゃあな、もう二度とかけない！
あっ教室でも話しかけんなよ。もちろん図書室でも。
近づいたりもすんな。仲睦まじい～♪　とか思われたくないから。
いいな！　切るぞ！

3.最優の捌け口

……私。ヤビツだよ。うるさい喋るな黙って聴け。
いや、……なんかさ、……お前、私の事、好きなんだろ。な？　な？
じゃあ言う事聞け。そしたら……まあ、前向きに考えてやるよ。
……うわッ、何だその明るい声。……そ、そんなに……好きなの？
……ぁ、そぅ……。
あッ。ええと、ひとつ良い事思いついたんだ。
お前、私のサンドバッグになってよ。
……いや、物理的じゃなくて、精神的サンドバッグ。
お前ならさ、私が普段どんだけストレス溜め込んでるか、分かるだろ？
お前は良いよな。ぼっちだから、大して窮屈さも感じないだろうし。
私はね、生ごみみたいな汚物に囲まれて生きてるわけ。
じりじりじわじわ、足元から汚染されていく気分。たまらないだろ？
つまり捌け口がないと、そのうち禿げます。ストレスでつるっぱげです。
ほら、禿げていいの？　そんな私をお前はまだ好きでいられるの？　んー？
……えっ、……ぅ、あ。ふーん……いやダメだよ私は禿げたくないし！
とにかくさッ、今日からさ、サンドバッグになれよ、いいな！　……よし！
さっそくだけど、図書室！　も～～あの図書委員ほんっとクソ！
なんであんな女が図書委員やってんの？　管理ずさんすぎんだよ！
……っさいな。お前に言っても仕方ないけど、これで私はスカッとするの。
だから……、……お、おお、そうだよな。お前もそう思うよな。
あいつほんとクソだよね。ブスのくせに可愛い子ぶってるし。
ジャンケンになるくらいなら、他の委員先に選べっての。
は？　私はそういうのやりたくないもん……。
図書室のあのスペースで、じっと静かに本を読みたいんだよ。
ああそういえば、まだお前にその事、文句言ってなかったっけ。
私のフェイバリット・スペース奪いやがってさ。何様のつもりだよ？
……今回は大目に見てやる。次回から許可制だからな。
ちゃぁんと私に断り入れてよね。

ま、絶対に許可下ろさないけど。……フフッ。バァーカ。バァカバァカ。
……え？　ぁ、……別に、おかしいから笑っただけ。
あんまりお前が惨めで滑稽で、どうしようもなく笑うしかなかったの。
おい、……図に乗るなよ？　えっなに？　まさかもう恋人気取りなの？
はんッ……これだから童貞は困っちゃうなぁ。勘違いカワイソ～。
あのね。お前と。私は。今は主従関係みたいなもの。
分かる？　分かるよね。
そりゃあ、互いが互いの弱味……というか、秘密を握り合っちゃいるけど、
私はあれだぞ、やろうと思えば、お前のイヤ～な噂をクラスにばらまけるんだ。
スクールカーストそこそこのヤビツさんですよ？
ほら、ひとの口に戸は立てられぬ、って、誰でも知ってる言葉あるよね？
誰でも知ってるってのは、それだけ皆に使われてるって事。
つーまーり。ちょこっと耳打ちすれば、一気に噂……広まっちゃうよ？
怖いだろ？　ただのぼっちだったお前が、一瞬でいじめられっ子になるんだぞ。
……、……少しは怖がれよ。何でそんな平然としてられるのさ。
――なッ……う、嘘じゃないし。やればできるし。本当にやってやろうか？
……うぐ、何だよお前、やけに強気じゃんか……。
どうして、私がそれを絶対しないって……言い切れるんだよ……。
んぅ……？　……、……！　あっそ！　馬鹿か？
知ったような口きくなッ。私の本性を曝け出したくらいで調子乗りやがって。
お前あれだな、段々生意気になっていってるな？
まあ元々だけどさ、なにそっちから距離縮めてきてんだ？　おい、こら。
そんな事してもウザいだけだし。私の好感度下がるだけだぞ？　な？
……ぬぅ。うるさいなぁもう。はいはい分かりました。
お前には言うだけ無駄ってのが、何となく分かってきました。はいはい。
ったくさ、お前と話してると……、……ん？
いや、……ストレスは別に……感じない、けど。
……まあその、あれ。私が言い出したサンドバッグだからな、
多少スカッとするし、うん。……ありがと。

……あッ！？　ちょッ……いちいちそんなんで喜ぶなよッ。
お前、日常生活でお礼も言われないような立場なの？　うっわ……。
何か、本当に可哀想だね……。少し同情しちゃうわ……。
あーあーもう嬉しいのは分かった。水を得た魚（うお）かよ。
ありがとありがと。耳障りだから切るわ。じゃあな。
……明日また、かけるから。もちろん、サンドバッグとしてね？

4.最低の会話

おい、お前さぁ、……この前、許可とれって言わなかったっけ。言ったよね。
言ったはずだよ。今日もあそこ座ってやがったな……。何してんのマジで。
直接文句言おうと思ったけどさぁ、今日、何気にひと多かったしさぁ、
ただでさえ静かな図書室で騒ぐわけにもいかないから、おとなしく帰ったんだ。
おかげさまで本読めなかったんだけどね？　なあ？　ねえ？
……言い訳くらいは聴いてやるよ。ほら言え。正直に。真摯に。包み隠さず。
ぁあ？　……、……。は……。
うっわ！　き、きっも！　なにそれ、温もりって何？　私の？
残ってるわけないだろ、あんな椅子に！　えっなにそれ、えっえっお前っ。
きっも、きっも！　何言い出してんのキモイキモイ。ほんとキモイ。
キモすぎてゲロ吐きそう！　っていうか死んで！？　心底キモいから！
……ッ……、ふぅ。
本当の理由、言えよ。何か、あるんだろ……。何かさ……。
え……？　……あ、……た、確かに、面と向かって……はいないけど、
キモイなんて……本気で誰かに言うの……これも初めてだな。
……割と、爽快感あるな。気持ち飲み込むよりずっと気が楽で……。
お前になら言っても大丈夫な気がして。ま、本当に心底キモイと思ったけど。
……あっ。
まさかもしかして、お前、前にした告白の話……覚えてたのか？

あの、キモイって思っても口に出せないって奴……。
それで私に気ィ遣ったわけ？　……フン。あっそ。馬鹿じゃないの。
べっつに、何とも思わないわ。ありがた迷惑だ、うん、ありがた迷惑。
気遣えばいいってもんじゃない。そんなの優しさとは程遠いし。
まあ、……気遣おうとしたその気持ちだけ、受け取っとく。何か、悪いし。
……あーでも、どうしよ。お礼言うとお前、犬みたいに喜ぶからなぁ。
ここはあえて何も言わないでおくよ。ふふっ。……ほしかった？
お礼ほしかった？　ねぇねぇ。……あげないよ、バーカ♪
ふふッ……あははッ。ククッ。やーっぱり、私の方が一枚上手だろ？
最初はさぁ、お前の一言一言に振り回されたけど、何て事なかったね、
お前は前々から私を分析してて、逆に私はお前について知らなかったからな。
そのアドバンテージも種が尽きる頃だろ？　手に取るように分かるぞ～？
話せば話す程、お前は私から逃れられなくなっていく。
私を振り向かせる為にしてるどころか、ずぶずぶ私に依存して……。
まーあ？　私、可愛いし？　賢いし？　優しいからね、仕方ないと思うよ。
ただ依存されても困るんだよね。私にしてやれる事って言ったら、そりゃ、
サンドバッグしかないわけ。それでもいいのカナ？　ふふふ。
……、ねえ、……お前さ、私のどこに惚れたの。
一切接点なかったし。一度だって話した事ないじゃん。まさか一目惚れ？
そんなベタベタな理由じゃ冷めちゃうよ。
いやいや、元々熱なんてないけどさ、お前の事だから、
またおかしな理由つけるんじゃないかなって思って。……言ってみ？
……、……ふうん。全部っていうのも、……意外というか何というか。
全部って、全部？　顔とか、……身体とか？　……このスケベ野郎。
え、ぇえ……？　それって、声も仕草も口調も、何もかも……？
う、……いや、なんか、キモイし、正直無理って思うけど、ううん、
全部お前に見られてて、観察されてたんだな……。呆れるというより、
もはや尊敬に値するよ……。
……、……いやでも待て。お前それってさ、

表側の私の話だろ？　今ここで話してる私じゃないだろ？
へ。……え、表じゃないの……？　もしかして、全部……裏の話？
あ、あぁあ……そうか。そうだったのか。ふうん……。
よく考えれば、お前、私の心を見抜いてたわけだもんな……。
表が好きだったら、そこで幻滅するはずだよね……。
うぇッ？　……し、しないんだ……？　へ、へえ、そりゃ守備範囲が広いな。
あ、あー。なんか、今日はもうやめとくわ。これからご飯だし。
じゃあな。

5.最近の日常

よっ。
あー、その、なんだ、相変わらずお前、昼間は教室で本読んでるだけだね。
たまには友達つくろうとかしないわけ？　肩身狭くないの？
……へー。まあ、慣れってのはあるか……。私は絶対イヤだけどな。
いくら周りが偏差値マイナスレベルの下等集団だからって、
交友関係を蔑（ないがし）ろには出来ないだろ。それ、人生の鉄則。分かる？
ま、ぼっちさんには理解不能ですかね。はは。ははは……。
……最近さぁ、思うんだ。馬鹿馬鹿しく聞こえるかもしれないけど。
ひとはひとと繋がってないと、ひとじゃなくなるのかなーって。
……哲学者を気取るつもりはないよ。ふとそう思っただけ。
こんな話、周りに出来るわけないし。
でさ。私やお前は、「自分は他者より物事を深く考えて、理解してる」だとか、
「今さえよければいい、みたいな、いわゆる刹那主義を見下してる」だとか、
そういうもの抱えて生きてるじゃん。
でもさ、当たり前に生きるには、そんな連中ともつるんでかなきゃだし、
もしそれをやめて孤独になったらとか考えて、……あ。何か、愚問だったね。
だって、よく考えればさ、答えはお前の存在そのものだもん。

お前は誰とも接しなくても生きてるもんな。って事は、割と大丈夫なわけか。
自問自答しちゃった。言った通り馬鹿みたいだな、あはは。
あ……でもひょっとして、それ、お前が生きていられたのって、
私が常に近くにいたから……なのかな？
繋がってなくても、似た考えの持ち主が近くにいたから……。
ねえ。やっぱり、私に想い伝えられた瞬間って、嬉しかった？　どうなの？
……そうか。まあ、そりゃそうだな。共感も理解も嬉しいもんな。
……ん？　……だから、別にどうもしてないって。
たまに湧き水みたいに、途方もない考えが頭をよぎるんだよ。
本の読みすぎかな？　それとも、お前と話してるせいかな？
最近はその頻度が増えた気がする。
裏と表、どっちも外に出しちゃってるから……かもね。
あはは……。……んぇ？　なにさ、いつものって。
ああ、サンドバッグ？　別にいいよ、今日は。あんまり溜まってないから。
お前にぶつけてる効果が、少しは出てるって感じ。ありがとね～。
……出た、そのリアクション。もはや一芸と化してない？
なに、私はキモイって言えばいいの？　それがまた私のストレス解消？
何か、キモイって思うだけでプラマイゼロな気がしてきたんだけど……。
まあいいや。はいはい、キモイキモイ。……ふふ。
なんだよー。別にそんなんじゃないよー。キモイと思ってるよー。ほんとー。
……、……なあ。
なんかその、いつも私さ、お前に話……聴いてもらってるじゃん。
嫌気とか、差さない？　それこそストレス感じない？
……ああそう。ま、いいんだけど。私は知ったこっちゃないし。
いやーでも、うん、たまには、さ、お前が話してもいいんだぞ。
……、う……そんなんじゃッ。ただ喋り疲れただけ。それだけ。
そう、愚痴の垂れ流しも飽きたからさ、聞き役だってしてやるよ。
お前いっつも「分かる」とか、そんなんばっかりじゃん。
同意も良いけど、少しは考えとか……教えてくれよ。

……うん。今日はちょっと、静かにするからさ。

6.最後の壁

どーもどーも。ヤビツでーす。
はあッ。今日もかったるかったなぁ。怠くて愚痴る気にもならないや。
っていうか、やっぱりあんまり溜まってないし。
昨日の話の続きでもするか。何だかんだ、お前なら話が合うからな。
クラスの馬鹿どもとは、話題合わせるの大変なんだよ。めんどくさい……。
はーあ。んぁ？　んー、学校にいる間は一秒だって気が抜けないんだよね。
どいつもこいつも、あいつもそいつも、一枚皮被って話してる感じ。
何の価値もない会話ばっかりで、本音なんてどこにもありゃしない。
まー、そんなのはいいとして――
……え……うん？　どしたの、改まって。何の話？
……へ。えっ？　えっ。
な、何だよ急に。どういう意味？　ぼっち……なのは、お前だろ。
え、ちょっと待って。何が言いたいの、それ。
まーたおかしな事言い出しやがってさ。今度は何の冗談だ？
……は……いやいやいや、ぼっちはお前だけだって。何だよマジで。
私は友達もたくさんいて、教師からも好かれてて、成績も良くて……。
……へ……？　……あ、ぇ、え。
おい。そこで止めてもらえる？　マジ。あの、ほんとに。
――おまッ……おい、お前、さ、なに、私を……怒らせたいの？
ねえ。……ねえ！
……。
……ああ、そう、そっか、そうなんだ……。
……、……ねぇ君ぃ。あのね、超えちゃいけないラインっての、分かる？
君さ、それってさ、つまり君が言いたいのはさ、
あたしが、友達たくさんで皆に愛されるヤビツ藍ちゃんが、

実は、その気持ちを誰からも理解されてなくて、される気もなくて、
心理的に精神的にぼっちで、寂しい奴だって事だよね？　ね？
あのさ。どーゆーつもりでそんな話をしたの？
あたしを突き放したいのかな？　ね？
あは。あはははは。あはは。ウケる～。マジウケるんですけど～。
あはははははは……。
あー、あー、あー、あー、これ、ダメだ。
君、得意だよねぇ～。あたしの心の中に手ぇ突っ込んでくるのさぁ～。
あーーーー……、
ひッッッさびさに、君の事殺したいと思っちゃった。
……君はぁ、誰から見てもぼっちだけど。あたしはそんな事ないの。
あたしはぼっちなんかじゃない。誰がどこからどう見たって違う！
分かった気になって、良い気になってた？
うん。あたしも良い気になってたよ。初めての理解者だもん。
でもそれは、一線置いた距離だったから心地よかったの。
お互い辛いところあって、理解し合って、気分の良い距離感だったの。
つまり、まだ壁があったんだ。見えないくらいの壁だけど。
あのね。
あたしのパーソナルスペースはね、そりゃあもう掻き消えるくらい狭いけど。
君、あたしの一番触ってほしくないところに、壁に、手、伸ばしてきたから。
たぶん、いやきっと、君の思ってるよりずっと、……やばいよ？
……。ねー。もう二度と話しかけないでほしいなぁ♪　お願いぃ♪
今までの話、ぜーんぶなかった事にして？
サンドバックも世間話も理解も共感もぜーんぶ、白紙にしよ？
で、これきりもうあたしに関わらないで？
この通話も、もう切ろ？
あ、でもぉ、あたしから切るのなんて逃げるみたいでヤだからさぁ。
君、通話、切ってくれない？　ね？　切って？
ほら、切って。切って。早く。切って。切って。切ってよ。切って。

……、……それが君の、最後の言葉？　そう。……好き、か。
ああ。
最後の最後の最後の最後で、君ってば、平凡になっちゃったね。
……少しでも賢しいと思ったあたしが馬鹿だった。
ああそっか、あたしも馬鹿だったんだ。今さら気づくなんて、そんなの、
なんてどうしようもない話だろう。
……だから、もう、切って。
……。
……切れ！　切れよッ！
ッ……。オォマァエェ……！
ああそうだよッ。ぜーんぶお前の言う通り。
最後だから、洗いざらい話してやる。
私はぼっちだ。この世界で誰よりもぼっちだ！
大勢の友達に囲まれようが、褒められようが、
一瞬だって本当の私を見せた事がなかった。それでよかった。
失望が怖くて、変わるのが怖くて、仮面の下を見せるのが恐ろしくてッ、
でも、それがひとだろ！？　生きてりゃ誰でもそうなるだろ！？
たぶん、誰も彼も無自覚で、私は頭が良いから、それに気づいてたんだ。
孤独、ずっと孤独。孤独だと思ってた。お前と出会うまではッ……！！
……ひぐッ……ぐすッ……お前、が……私の、扉……こじ開けたんだぞ……。
きっと、嬉しかった……信じようって、思ってた……、でも、でも、
お前、が、お前から、それだけは……言われたくなかった！
うぅッ……うううううッ！　ぁあああッ……。
死ねッ、死ねクズッ！　さんざひとの心引っ掻き回してッ、
結局これが結末かッ！？　最悪だよ、最低だよッ、なんで、なんでさ、
言っちゃいけない言葉とか、伝えちゃまずい事実とか、
なんでそういう判断ができないのッ！？　ねえッ！
も、私……どうすりゃいいんだッ……。分かんない、分かんないよ……。

……ッ……、……お前は、いつもいつもいつもいつも……、そんな、
馬鹿げた事、ほざいて、最初から、そうで……、今も……くそッ……！
最後の壁を、超えなきゃいけない。
そんなお前の……お前の下らない正義心みたいな、馬鹿みたいな、
お前の勝手で、お前の、意志……が……、……ッ……。
なぁ、おい。おいッ……。
お前が……通話切らなきゃ……一生切れないよ……。
うッ……ひぅッ……ぁあ……ッ……。
ぅ、ぅうッ……。ぅううぁあああッ。いやぁッ……！
やだぁッもうお話できないのやだぁッ、いて、ずっといて、私のそばにいてッ。
もうダメだよ私、お前がいなきゃ、もうお前しかいないんだよぉ。
頭、おかしいんだ、随分前から、おかしくなっちまったんだッ。
お願いッ、お願いしますッ。切らないでッ捨てないでッ。
頼って、頼らせてッ、私、私がんばるからッ……！
恋人になる結婚だってするッ。こんな言葉がダメなら変えるッ。
料理とか洗濯とか服装とかッ、身体だってッ！
お前が望むなら望む女になるからッ。だからッ。
……ぁ……あ、……あ……ぁあああ。
……好き、好きィッ……好きッ……私も、大好きッ……。
好き、好き、好き、好き、好きぃいいいッ……。
好きッ好きッ好きッ愛してますッ愛させてくださいッ大好きなんですッ、
この通話してる時間が、お前とお話してる時間が、
その全てが何よりのッ、幸せなのォッ！！　だからッ――
……――
……はは、ははは。あははは……。
……うん、……ありがとう。
……喜ぶところだろぉ、今のさぁ……。そんな真剣に返事するなよぉ。
……ありがとう。
こんなありがとうも、たぶん、きっと、初めてだよ……。

ごめッごめん……ね、……なんか、昂っちゃって……、……私、も、
いつかそれと向き合わなきゃなって、心のどこかで思ってた……きっと。
でも、変化は……怖いんだよ。私、は、周りがいくら馬鹿で、無能で、
私の精神蝕むような奴らばっかりでも、今まで築いてきたものが、
壊れるのが、怖い……。
……きっと、ひとりだったら、私も壊れてた。
お前が……お前となら、乗り越えられるかも……ね。
ん……、……今日も、に、なっちゃうけど、このまま……声、聴かせて。
わがままばっかりだなぁ、私……駄々っ子だったんだなぁ……。
……ん……、……お前の声、落ち着くよ。安心する。だから、ずっと、
こうしてて……。

7.最愛のひと

……はい。ヤビツです。こんにちは。
あ、あの、……あ、うん、熱とかはない。
ちょっと、色々疲れすぎて……学校、休んじゃった。
ん、大丈夫大丈夫。もうだいぶ回復したし、週明けたら行くからさ。
……、ん……。ありがとね。
ん？　あー……進路のプリントかぁ……。
んーと……、えっ、いや、悪いよそんな……。……いいの？
分かった。住所言うから……。ったく、変に優しくしやがって……。
うん、面倒かけるけど……本当にいい？　……ん♪
あ……。え、と。この時間、ね……、親、いないからさ。
もし。もしお前さえ、いいなら、その。……わがまま、言ってもいい？
……、……私、幸せになりたいな……。クスッ♪
待ってるね……♪

（終）